

CONTENTS

- 新年のごあいさつ（水土里ネットさいたま会長 柴田忠雄） 1
- 新年のごあいさつ（埼玉県知事 上田清司）…………… 2
- 新年に当たって（全国水土里ネット会長 二階俊博）…… 3
- 本年も「闘う土地改良」で全力（参議院議員 進藤金日子） 4
- 第39回全国土地改良大会 石川大会…………… 5
- 大会宣言…………… 6
- 岩田理事（旭日双光章）叙勲受章…………… 7
- 第3回監事会・理事会開催…………… 7
- 関東一都九県土連協議会による要請・要望・提案活動… 8
- 農業農村整備の集い開催…………… 9
- 農業農村整備の集い要請書…………… 10
- 上田清司埼玉県知事に要望書提出…………… 11
- 平成29年度 農林水産予算概算決定の概要…………… 12
- 平成28年度 水土里ネット職員研修会開催…………… 13
- 埼玉県多目的機能支援推進会議研修会…………… 14
- 第4回「彩の国農業・農村景観フォトコンテスト」入賞作品決定 15
- フォトコンテスト入賞作品一覧（会長賞）…………… 16
- フォトコンテスト入賞作品一覧（入選）…………… 17
- 2016 彩の国食と農林業ドリームフェスタ開催される…… 18
- 各研修会のお知らせ…………… 19
- 謹賀新年（県）…………… 19
- 農業基盤整備資金の金利改定について…………… 20
- 謹賀新年（土地連）…………… 20
- 通常総会開催のお知らせ…………… 21
- 連合会日誌…………… 21

埼玉の土地改良

春待つたんぼ（春日部市）



新年のごあいさつ

水土里ネットさいたま
埼玉県土地改良事業団体連合会
会長 柴田 忠雄



明けましておめでとうございます。会員の皆様には、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、4月の熊本地震、8月の北海道・東北豪雨など各地で自然災害が相次ぎ、土地改良施設や農作物にも甚大な被害が発生しました。県内では、6月中旬からの利根川水系における取水制限、8月の台風、秋の長雨による日照不足などの影響はありましたが、幸いにも大きな被害には至りませんでした。近年の自然災害は、激甚化の傾向にあり、その脅威と防災・減災対策の必要性を強く感じました。

また、土地改良関係者に元気を取り戻させた転換の年でもあったと思います。参議院選挙では、土地改良の代表である進藤金日子さんが見事当選を果たされ、その後開催された全国土地改良大会や農業農村整備の集いは、全国各地から多くの関係者が集まり大いに盛り上がりました。

さて、農業・農村を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化、担い手の不足、農業水利施設の老朽化など依然厳しい状況が続いております。農業をはじめ幅広い分野から懸念が示されていたTPPの承認案と関連法案は先の臨時国会で可決・承認されましたが、米国のトランプ次期大統領が離脱を表明しており発効は不透明です。今後は、TPPの発効如何にかかわらず自由貿易は拡大すると思いますので、農業の基盤である農地の大区画化をはじめとする土地改良事業を計画的に進めることにより、生産コストの削減や競争力の向上など農業の体質強化を図り、国際化に備えなければなりません。

事業を計画的に進めるうえで必要な国の農業農村整備関係予算ですが、平成22年度の大幅削減以降回復傾向にあるものの要望を満たす額には戻っておらず、各地域から増額確保を望む声が一段と高まっております。このような中、昨年の2次補正で1,752億円が確保されました。また、29年度予算の概算決定額は4,020億円となり、2次補正を合わせると平成21年度予算と同額になる見込みです。

県予算につきましては、ほ場整備や農業水利施設の長寿命化対策、排水機場及びため池の減災・防災対策などの推進に必要な予算を確保するよう要望しております。とりわけ会員の皆様から要望の多い土地改良施設維持管理適正化事業につきましては大幅な増額をお願いしております。

今年は、生産調整や直接支払い金が最後の年となる見込みであり農業の転換期になりますが、県民の安全・安心な生活を支えている農地と農業用水を健全な状態で保全し、次の世代へ継承していくことが我々土地改良関係者の責務と考えております。「強い農業」と「美しく活力ある農村」の実現に向けて邁進してまいりますので、皆様の一層の御支援・御協力をお願い申し上げます。

結びに、会員はじめ関係機関の皆様の御健勝と御活躍、そして本年が穏やかな年となることを心から祈念し新年のあいさつといたします。

新年のごあいさつ



埼玉県知事 上田清司

埼玉県土地改良事業団体連合会会員の皆様、明けましておめでとうございます。健やかに平成29年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは、埼玉県にゆかりの深い選手の皆さんが活躍されました。選手の皆さんが全力を尽くす姿に、大きな感動と勇気をいただきました。

ここ10年の埼玉県の勢いには、目を見張るものがあります。圏央道の県内区間全線開通や、北陸新幹線及び北海道新幹線の開業によって、全国各地へとつなぐ交通アクセスが飛躍的に向上し、埼玉県の立地優位性は大いに高まっております。事実、企業本社の転入超過数は2015年までの10年間で927社と全国1位であり、2003年から2013年までの県内総生産の増加額、全国シェアの増加ポイントも愛知県に次ぐ全国2位となっております。

このように、埼玉県は確実な成長を続けていますが、今後はこれまでに経験したことのない局面を迎えます。団塊の世代が75歳以上となる2025年には、生産年齢人口の減少による社会活力の低下が懸念されています。このような局面を迎えるにあたり、誰もが将来に希望を持ち、生き生きと活躍できる社会を築くため、知恵を絞り工夫をしなければなりません。

生産年齢人口が減少する局面にあっては、社会の担い手としてのシニアや女性による社会参加が大変重要となります。元気なシニアが自身の希望に合わせて仕事やボランティアに参加し、社会の担い手として活躍することを目指す「シニア革命」も本格化しています。その「シニア革命」を支える「健康長寿埼玉プロジェクト」も全県で展開しているところです。

また、女性の社会参画を進める「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」は、グーグルで「ウーマノミクス」と検索すると上位3つが埼玉県の取組であるほど、全国に知られています。

さらに、本田技術研究所と連携して開発した小型マグネシウム蓄電池など、既にその成果が出つつある「先端産業創造プロジェクト」も力強く進めます。情報・人材・技術を埼玉県に集積して、研究機関や大学の持つ研究成果と企業の持つ優れた技術を結び付け、実用化・製品化開発を促進していきます。

農業分野では、競争力強化のため低コストなほ場整備を推進するとともに、農業水利施設の計画的な補修・更新を推進することが極めて重要と考えています。平成28年3月策定の「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」では、毎年100ヘクタールの基盤整備の実施を目標としています。特に、低コストかつ短期間で区画拡大できる「埼玉型ほ場整備」を推進することで、これからも皆様のお役にたてる農業・農村整備事業を展開してまいります。

埼玉県土地改良事業団体連合会会員の皆様には、引き続き埼玉農業の発展を支える農業基盤の整備や維持管理に更なる御尽力をいただけますようお願い申し上げます。

結びに、この1年が皆様にとりまして、幸多き年となりますようお願い申し上げます。年頭の挨拶といたします。

新年に当たって

全国水土里ネット
全国土地改良事業団体連合会
会長 二階俊博



平成29年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、多くの災害に見舞われました。4月には熊本県と大分県で、また、10月には鳥取県で大規模な地震が複数回発生しました。現地では復旧作業が急ピッチで行われておりますが、今なお避難生活を余儀無くされている方々が多数おられます。また、8月末から9月には東北・北海道に、10月には南九州にそれぞれ台風が襲来し、洪水による被害が発生しました。これらの自然災害は、予期せぬ形で発生し、いずれも多大な被害をもたらしております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。これまで各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し悲鳴が上がっておりましてし、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりましたが、この度、全国の皆様の熱心な要請活動によって、平成28年度補正予算で1,752億円を確保するなど、平成29年度当初予算も含め、ようやく以前の水準に近いところにまで漕ぎ着けることが出来ました。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、昨年の参議院選挙では、見事進藤さんが当選を果たされました。この選挙活動を通じて、地方のすみずみまで「闘う土地改良」の精神が浸透したと実感いたしております。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層の浸透が図られるよう念じております。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、農林水産省では、昨年8月に新たな土地改良長期計画を策定されました。その中で、産業政策として「豊かで競争力ある農業」、地域政策として「美しく活力ある農村」、さらに産業政策と地域政策を支える土台として「強くしてしなやかな農業農村」の三つの政策課題を掲げられております。また、昨年11月には、政府の「農林水産業・地域の活力創造本部」において、「農業競争力強化プログラム」が決定され、「農林水産業・地域の活力創造プラン」の中に位置づけられました。このプログラムには、農業生産・流通の構造改革とともに、真に必要な基盤整備を円滑に行うための土地改良制度の見直しも謳われております。農地の集積・集約化を進めるため、農地中間管理機構が借りている農地のほ場整備事業について、農地所有者等の費用負担を無くし、事業実施への同意を不要とすること、また、土地改良区の体制強化等についても検討を進めることとされています。

私たち土地改良担当者としては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

本年も「闘う土地改良」で全力



しんどう かねひこ
参議院議員 進 藤 金 日子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、皆様のご支援をいただき、現在、参議院議員として国政に参画いたしております。土地改良に係る方々が心を一つにいただいた昨夏の結果を胸に刻み、今年も皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいります。

昨年は、本当に災害の多い年でした。4月の熊本地震被害、8月の北海道・東北を中心とした台風被害などがありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に全力を尽していく必要があります。勿論、東日本大震災や原子力災害への対応についても、引き続きしっかりと対応していくことが重要です。また、気候変動等に起因すると思われる豪雨災害等が頻発していることを踏まえ、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題となっており、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していく必要があります。

土地改良にとって本年は、制度的にも予算的にも極めて重要な年となります。

まず制度です。第一に昨年8月に閣議決定された土地改良長期計画実働の初年であり、目標達成に向けて確実に所要の成果を確保していく必要があります。第二に昨年11月に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」と新たに策定された「農業競争力強化プログラム」に基づき、着実に施策を実施していく必要があります。特に、「農業競争力強化プログラム」は、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力のみでは解決できない構造的な問題を解決するため、13項目にわたる課題に対する取組みの道筋を示し、その実行により農業者の所得向上を図ろうとするものです。土地改良については、土地改良制度の見直しとして、農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業制度創設の他、国・都道府県営土地改良事業に係る申請人数要件（15人以上）の廃止、突発事故に係る事業やため池等の耐震化事業について原則農業者の費用負担や同意なしに事業実施が可能となる仕組みの創設、一定の機能向上を伴う更新事業について同意徴集手続を簡素化する見直しなどが盛り込まれています。これらは、今後、土地改良法を改正した上で順次実行されていくこととなります。

次に予算です。今年度補正予算で大幅な追加がなされ、更に平成29年度予算政府案においても着実に予算が回復してまいりました。補正予算は、基本的に予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待をしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。

貴県におかれましては、「埼玉県農林業・農山村ビジョン」に基づき、埼玉型ほ場整備や農業水利施設の計画的な補修・更新などを進める中で、地元要望を満す予算の確保が大きな課題と伺っております。

往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かしましょう。私も、引き続き「闘う土地改良」の先頭に立って全力を尽くし、皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいります。今年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

“第39回全国土地改良大会石川大会” 開催される

第39回全国土地改良大会が去る10月25日、石川県金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」において、“水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ”をテーマに、全国から農業農村整備にかかわる関係者4,300名が参集し、新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、関係者の総力をあげて我が国の農業・農村をさらに発展させることを目的として開催された。

式典では、開催県である石川県土地改良事業団体連合会西村徹会長の挨拶に続き、主催者の全国土地改良事業団体連合会二階俊博会長が「これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、『戦う土地改良』を活動の基本におきながら積極的に貢献していくことが必要である。今回の大会・現地視察を通じて、我々に課せられた使命の重要性を認識していただき、各地域の課題を解決し、地域農業の振興にどのような貢献が出来るかについて考える絶好の機会にしてほしい」と強調された。さらに、石川県の谷本正憲知事と金沢市の山野之義市長から歓迎の挨拶があった。来賓として、磯崎陽輔農林水産副大臣、新藤金日子参議院議員より祝辞があった。

続いて、農林水産大臣表彰を含む68名の土地改良事業功績者表彰が行われ、本県からは、馬宮土地改良区星野和夫理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞された。

その後、室本隆司農林水産省農村振興局次長より「国土と未来を築く土地改良」について、次に丸山利輔石川県立大学参与より「石川ゆかりの農業農村を支えた先達」の基調講演があった。

続いて、北陸の優良事例地区紹介として、新潟県から柏崎土地改良区、富山県から黒部川左岸土地改良区、福井県から九頭竜川鳴鹿堰堤土地改良区連合からそれぞれ説明があった後、大会宣言（別掲）を石川県立大学の学生2名による朗読を行い、採択された。

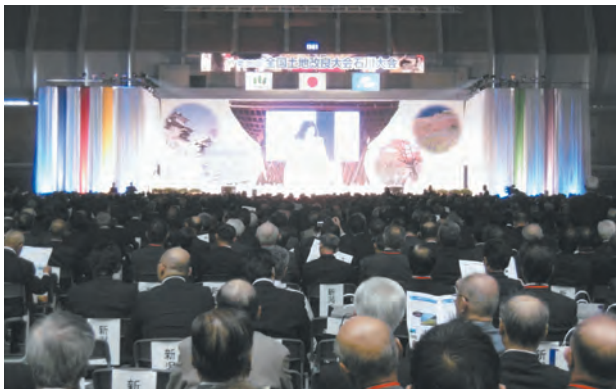
最後に、次期開催県の静岡県へと大会旗の引き継ぎが行われ、静岡県土地改良事業団体連合会伊藤真英会長から挨拶があり、閉会となった。



全土連二階会長挨拶



(全土連会長表彰) 星野理事長



大会の様子



県内からの参加者

大会宣言

我が国は、美しい四季を持ち豊かな食文化を有する恵みの国であります。

古より葦が生い茂り稲穂が豊かに実り栄えるそのさまは「豊葦原の瑞穂の国」と美称されてきました。

縄文時代の後期に大陸から水田稲作技術が伝来し、先人達は農地を耕し、かんがい用水を導き、度重なる自然災害を幾度となく克服し、今日の水田農業が確立されました。

また、水田農業に欠かすことのできない排水は、藩政時代の新田開発のために先達によって築造され、今も全国に数多く現存しています。今日まで適切な保全管理がなされてきたことにより、これらの施設の内、歴史的、技術的、社会的価値のある国内施設は世界かんがい遺産として認定されています。

農は国の大本であります。私達は先人に学び、活力ある農村と持続可能な循環型社会を構築するため、農業技術の研究開発と共に、ほ場整備やかんがい排水施設等を整備する上で大きな役割を担う、農業土木技術の研鑽と技術者の育成に努めてきました。

一方、日本の食料自給率は39%の現状にあり、先進諸国の中でも最も自給率の低い状況にあります。21世紀中には、発展途上国の人口が大きく増加して世界人口が急増するとともに、地球温暖化による異常気象が頻発し、砂漠化の拡大、ゲリラ豪雨の多発による洪水災害などにより、世界の食料の生産力の低下が懸念されることから、食料確保が喫緊の課題です。

しかし、日本の農村社会は過疎化、高齢化が進展し、農業者の離農により非農家が増え続け、耕作放棄地の増大にも歯止めがかかりません。

私達、水土里ネットは、国民に農業農村の大切さについて理解を深める啓発活動を継続し、農村地域の豊富な資源である水、太陽光、バイオマス等の再生可能エネルギーの積極的な活用等により自らが組織強化を図るとともに、引き続き地域と資源を守り安全安心な農村社会を創ることが使命です。

更に、農業農村の持続的な発展により、国土の保全、水源涵養など多面的機能の発揮を促し、農村地域の活性化を図らなければなりません。

本日、ここに集う私達は、活力ある豊かな農業・農村を目指し、「水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」を、ここ石川の地において高らかに宣言します。

平成28年秋の叙勲 岩田讓啓氏 旭日双光章に輝く

平成28年秋の叙勲に、本会理事で元荒川上流土地改良区理事長の岩田讓啓氏が永年の功績により栄えある「旭日双光章」を受賞しました。



平成28年度 第3回理事会開催

平成28年度本会第3回理事会を11月9日日本会大会議室に於いて開催した。

附議事項の

議案第1号 平成28年度収支補正予算について

議案第2号 埼玉県土地改良事業団体連合会会計規程の一部改正について

議案第3号 埼玉県土地改良事業団体連合会土地改良施設維持管理適正化資金拠出約款の一部改正について

慎重審議し全員異議なく可決決定された。

なお、報告事項として、今後の会議開催予定、平成28年度収支状況について報告された。



理事会の様子

関東一都九県土連協議会による要請・要望・提案活動

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会では、去る11月18日に関係する国会議員、財務省、農林水産省関係者に、農業農村整備事業の推進に関する「要請・要望・提案」活動を行った。

本会は、群馬県土連、東京都土連とともに関東農政局へ出向き、島田農村振興部長に提案書を手渡した後、石川設計課長らと交えて意見交換を行った。

その後、永田町の議員会館で一都九県土連が合流し、小泉進次郎農林部会長、進藤金日子農林水産委員、片山さつき政務調査会会長代理に要請を行った。小泉農林部会長からは、「農家のためになる農業改革を進める」旨の話があった。

自由民主党本部では、二階俊博幹事長、茂木敏充政務調査会長がそれぞれ忙しい公務の時間を割いての面会、要請であった。二階幹事長からは、「農業競争力を高めるための農業農村整備事業の推進は理解している」旨の激励の言葉があった。

◆要請要旨

1. 農業農村整備事業の当初予算を安定的に確保すること
2. 農地中間管理事業の推進と農地集積先行地域への支援を強化すること
3. 国土強靱化を図る農業水利施設の保全管理並びに防災・減災対策等への支援を強化すること
4. 多面的機能支払交付金の予算を安定的に確保すること
5. 再生可能エネルギーの導入促進を図ること
6. 水土里ネットが有する地図情報システム（水土里情報システム）の有効活用を図ること
7. 中山間地域総合整備事業の補助金化を図ること
8. 土地改良区体制強化事業の支援拡大と水土里ネットが有する技術と経験など持てる能力を十分発揮できるよう配慮すること



二階幹事長へ要請



小泉進次郎農林部会長へ要請

「農業農村整備の集い」が開催される

“農を守り、地方を創る予算の確保に向けて”をテーマにした「農業農村整備の集い」が去る11月28日、東京都千代田区・砂防会館別館「シェンバッハ・サボー」において開催された。会合には多数の衆参国議員や農水省幹部のほか、1200名を超える全国の土地改良関係者が集まり、例年にも増す盛り上がりを見せた。

冒頭の挨拶で二階俊博全国土地改良事業団体連合会長は、「土地改良事業予算をこの2年間で平成21年度の水準に戻すため努力してきたが、ようやく近い水準まで戻すことができた」と評価し、「農家の期待を裏切らないためにも、全力で予算の確保に向け努力する」と決意を述べた。

続いて来賓として、山本有二農林水産大臣をはじめ、自民党農林・食糧戦略調査会の西川公也会長、自民党食料産業調査会の宮腰光寛会長、今村雅弘復興大臣、進藤金日子農林水産委員がそれぞれ祝辞を述べられた。

事例発表は、由利本荘市土地改良区（秋田県）、赤城西麓土地改良区（群馬県）、三角町土地改良区（熊本県）から取り組みが紹介され、続いて、農業農村整備関係予算の確保と農業の構造改革の加速化に向けた対策等の要請文（別載）が、満場一致で採択された。

大会終了後に本会参加者は、県参加者とともに、財務省・農林水産省及び本県選出の衆議院議員・参議院議員へ要請活動を行った。



二階会長挨拶



大塚拓財務副大臣に要請



矢倉克夫農林水産政務官に要請

要 請 書

- 一 土地改良関係予算を可及的速やかに平成21年度の水準に復活すること。特に、安定的・計画的な事業執行のため、平成29年度当初予算においては、概算要求額の満額を確保すること。
- 二 担い手への農地集積、生産コストの低減、高収益作物の生産等、農業の構造改革を加速化するため、農地の大区画化、水田の畑地化・汎用化、畑地・樹園地の高機能化等の対策を一層推進すること。その際、中山間地域等においても、農業経営の持続的な発展に向けて、地域特性を踏まえた基盤の整備が可能となるよう措置すること。

また、農地中間管理事業による担い手への農地の集積・集約の推進に当たっては、農地整備事業との連携を強化するとともに、水土里ネットが有する技術、経験、水土里情報システムなど持てる能力を十分発揮できるよう配慮すること。
- 三 東日本大震災をはじめとする未曾有の災害からの復旧・復興を早急かつ加速度的に進めること。

併せて、農村地域の強靱化に資するよう、ため池を含む農業水利施設等の更新・長寿命化や耐震化、洪水被害防止等の防災・減災対策についても国が責任を持って着実に推進すること。
- 四 これまで水土里ネットでは、地域の合意形成や共同管理を通じて「農村協働力」を強化し、農村の地域資源を支えてきた。このため、多面的機能支払い制度による農地や水路、農道等の保全活動の推進に当たっては、十分な予算の確保を図るとともに、水土里ネットが有する技術、経験などもてる能力を十分活用し進めること。
- 五 構造改革の推進による組合員の減少や電気料金値上げなど、水土里ネットの運営基盤が大きく揺らいでいる中、今後とも担い手等のニーズに応える高度な施設の維持管理が行えるよう、地域資源を有効に活用した小水力発電等による施設の維持管理費の軽減など、水土里ネットの運営基盤を強化できる仕組みを取り入れること。

上田清司埼玉県知事に要望書提出

本会では去る11月29日、県内8つの土地改良推進協議会長の連名で、上田清司県知事に対して予算要望活動を実施した。本会からは、柴田会長をはじめ吉田副会長（滑川町長）、田嶋常務理事が県庁を訪れ、上田清司知事ほか、塩川修、岩崎康夫両副知事、河村仁農林部長、大岡早孝農村整備課長へ、下記4項目の要望書を手渡した。

要望に際し柴田会長から「生産コストを低減するためのほ場整備の推進」と「農業水利施設の長寿命化のための推進」「多面的機能支払制度の推進」について、また吉田副会長からは「ため池の防災・減災対策の実施」などについて説明した。

意見交換では、吉田副会長から「多面的機能支払制度」により、ため池堤体にヒメイワダレソウを植栽したことを報告すると、上田知事は「いいですね」と理解を示され、また新規就農者をシルバー農業で支えている話題には「退職者を雇用し農業を拡大している農業法人もある」と応えた。最後に上田知事は「要望についてしっかり受け止めて対応したい」と、心強い意見を述べられた。

要 望 要 旨

- 1 強い農業を実現する「ほ場整備」の推進
- 2 農業水利施設の計画的な整備・補修の推進
- 3 ため池の防災・減災対策の推進
- 4 多面的機能支払制度の推進



要望書の提出



要望内容の説明

平成29年度 農林水産予算概算決定の概要

平成29年度予算の政府案が昨年12月22日（木）に閣議決定されました。

農林水産予算総額は別表のとおり2兆3,071億円（対前年比99.9%）を計上。このうち農業農村整備事業概算決定額は、3,084億円（対前年比104.1%）となっている。

平成29年度 農林水産予算の骨子

総括表

区分	28年度 予算額	29年度 概算決定額 A	(28年度2次補正追加額)	
			補正額 B	A+B
	億円	億円	億円	億円
農林水産予算総額 (対前年度比)	23,091 —	23,071 99.9%	5,739 —	28,810 124.8%
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,761 —	6,833 101.1%	2,863 —	9,697 143.4%
一般公共事業費 (対前年度比)	6,569 —	6,641 101.1%	2,150 —	8,791 133.8%
災害復旧等事業費 (対前年度比)	193 —	193 100.0%	713 —	906 470.4%
2. 非公共事業費 (対前年度比)	16,330 —	16,238 99.4%	2,876 —	19,114 117.0%

- (注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. このほか、28年度3次補正予算において、災害復旧等事業等に306億円を措置している。

公共事業費一覧

区分	28年度 予算額	29年度 概算決定額 A	(28年度2次補正追加額)	
			補正額 B	A+B
	億円	億円	億円	億円
農業農村整備 (対前年度比)	2,962 —	3,084 104.1%	1,580 —	4,664 157.4%
林野公共 (対前年度比)	1,800 —	1,800 100.0%	410 —	2,210 122.8%
治山 (対前年度比)	597 —	597 100.0%	100 —	697 116.8%
森林整備 (対前年度比)	1,203 —	1,203 100.0%	310 —	1,513 125.8%
水産基盤整備 (対前年度比)	700 —	700 100.0%	160 —	860 122.8%
海岸 (対前年度比)	40 —	40 100.0%	1 —	40 101.3%
農山漁村地域 整備交付金 (対前年度比)	1,067 —	1,017 95.3%	— —	1,017 95.3%
一般公共事業費計 (対前年度比)	6,569 —	6,641 101.1%	2,150 —	8,791 133.8%
災害復旧等 (対前年度比)	193 —	193 100.0%	713 —	906 470.4%
公共事業費計 (対前年度比)	6,761 —	6,833 101.1%	2,863 —	9,697 143.4%

- (注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. 農業農村整備事業関係予算については、
・ 29年度概算決定額として4,020億円（農業農村整備事業3,084億円、農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分701億円及び農地耕作条件改善事業（非公共）236億円の合計）
・ 28年度2次補正額として1,752億円（農業農村整備事業1,580億円及び農地耕作条件改善事業等（非公共）172億円の合計）
を措置している。
5. このほか、28年度3次補正予算において、災害復旧等事業に123億円を措置している。

平成28年度 水土里ネット職員研修会 開催

水土里ネットさいたまでは、去る11月10日(木)～11日(金)の2日間、県内水土里ネットの職員を対象とした研修会を長野県安曇野市内において開催した。(出席者33名)

研修内容は、下記のとおり。

1 「長野県拾ヶ堰土地改良区」の概要について

長野県拾ヶ堰土地改良区 理事長 中島義朋氏
事務局長 西川昭彦氏

長野県拾ヶ堰改良区は、全国屈指の緑豊かな田園風景が続く長野県安曇野市にあり、その美しい安曇野を流れる梓川、奈良川の水を取水し用排水路として管理している土地改良区である。また、管理するかんがい施設が、平成28年11月に「世界かんがい施設遺産」に登録され、歴史的にも大変価値あるものとして評価されるなど、長野県でも有数の土地改良区である。

当日は、土地改良区が管理する頭首工管理事務所において中島理事長、西川事務局長から拾ヶ堰の歴史、土地改良区の概要について説明を受けた。



研修の様子



頭首工

2 「大王わさび農場」見学

わさび栽培でつとに有名な大王わさび農場では、安曇野の清らかな水が流れる緑鮮やかなわさび田を前に、大王わさび農場記念館の濱重俊館長からユーモアたっぷりに農場の歴史や栽培するわさびの魅力について説明を受けた。



大王わさび農場見学の様子

平成28年度 埼玉県多面的機能支援推進会議研修会 開催

去る10月26日(水) 古代蓮の里古代蓮会館内研修室にて、県・加須農林振興センター管内の活動組織と市町村を対象に研修会が開催され、31名の参加者が刈払い機の安全な使用方法とメンテナンスなどについて理解を深めた。

研修会第一部では埼玉県農林部農村整備課より「刈払い機の事故事例」の事例報告が行われ、実際に起こった作業中の事故の経緯や被害を聞き、その危険性と対策の必要性を学んだ。続く第2部ではやまびこ東部株式会社埼群営業所の川田佳紀氏を招き「刈払い機の安全な使用方法とメンテナンス」の実演講習が行われた。参加者は使用に当たる日頃の疑問を積極的に質問しながら講習を受け、「これまで自分流で作業していたが、基本が学べて良かった。」「安全作業について新しい気持ちになれた」と声があがった。



研修会の様子

平成28年度 埼玉県多面的機能支援推進会議優良事例地区視察研修会 開催

去る11月11日(金)秩父市下吉田地区にて優良事例地区視察研修会が開催され、県・市町村・活動組織から99名の参加者が集まった。

優良事例地区の関兎田暮坪環境保全協議会（H27農業農村整備優良地区コンクール全国水土里ネット会長賞）、布里田中の地域資源を保全する会（H21豊かなむらづくり全国表彰事業農林水産大臣賞）の2組織を視察し、活動状況や組織の取組みについて学んだ。参加者は各組織の説明を受けながら、積極的に質問をし今後の活動の参考としていた。また、2組織の他にも釜の上農園レストランで地元の食材を使った食事を味わったり、兎田ワイナリー・合角ダムの見学も行われたりと参加者同士の交流も見られる研修となった。



研修会の様子

第4回「彩の国農業・農村景観フォトコンテスト」 入賞作品決定

水土里ネットさいたまでは、さいたま・川越・東松山・秩父・本庄・大里・加須・春日部の各土地改良推進協議会の共催で、美しい埼玉の農村地域の景観を広く一般の方々に紹介し、関心を高めて頂くために、「さいたまの水と土豊かな風景」をテーマに「第4回 彩の国の農業・農村景観フォトコンテスト」を実施し、県内をはじめ多くの方々から205点もの作品の応募がありました。

11月上旬に写真家の北田圭司氏を審査委員長にほか17名の審査委員による審査を行い、水土里ネットさいたま会長賞、各土地改良推進協議会会長賞、入選10作品を決定、表彰式を平成28年12月21日(水)に執り行いました。

なお、入賞作品をはじめ応募いただきました作品による写真展を八木橋百貨店オープンギャラリー一熊谷にて、平成28年2月3日(金)～6日(月)まで開催します。

皆様のお越しを心からお待ちしております。



審査会の様子



受賞者の皆様



表彰式の様子

受賞作品



水土里ネットさいたま会長賞
「秋 想」 撮影：戸室敬子
場所：横瀬町



さいたま土地改良推進協議会会長賞
「長い畝」 撮影：澤田清志 場所：桶川市



川越土地改良推進協議会会長賞
「稔りの秋を楽しみに」 撮影：森田久夫 場所：富士見市



加須土地改良推進協議会会長賞
「田園とあじさい」 撮影：丹羽由美子 場所：加須市



本庄土地改良推進協議会会長賞
「朝 霧」 撮影：蛭川隆市 場所：本庄市



秩父土地改良推進協議会会長賞
「田植え」 撮影：斉藤重利 場所：皆野町



大里土地改良推進協議会会長賞
「カルシウムを収穫」 撮影：荻野耕次郎 場所：熊谷市



春日部土地改良推進協議会会長賞
「日も暮れて」 撮影：堀之内稔 場所：蓮田市



東松山土地改良推進協議会会長賞
「田植えを終えて」 撮影：栗島祥次 場所：東秩父村



入 選「畝間作り」
撮影：青木幸子 場所：熊谷市



入 選「五月の水田」
撮影：町田正雄 場所：鴻巣市



入 選「夫婦の絆」
撮影：斉藤啓助 場所：加須市



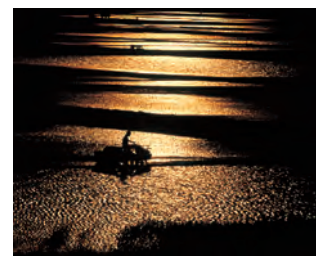
入 選「夕映えの田園」
撮影：野口伸一 場所：さいたま市



入 選「収穫終えて」
撮影：澤田幸雄 場所：東秩父村



入 選「力を合せて」
撮影：白井秀俊 場所：横瀬町



入 選「早苗の頃」
撮影：岩崎誠治 場所：さいたま市



入 選「春待つたんぼ」
撮影：福井和子 場所：春日部市



入 選「あぜ道」
撮影：大木春雄 場所：小川町



入 選「真剣な目・見つめる目」
撮影：小森和雄 場所：富士見市

「2016 彩の国 食と農林業ドリームフェスタ」開催される

埼玉県農林部農村整備課

平成28年11月19日(土)、20日(日)、越谷市のしらこぼと水上公園において「2016彩の国食と農林業ドリームフェスタ」が開催されました。初日はあいにくの雨でしたが、2日目は好天に恵まれ、多くの方に御来場をいただき、会場内は大変なにぎわいとなりました。

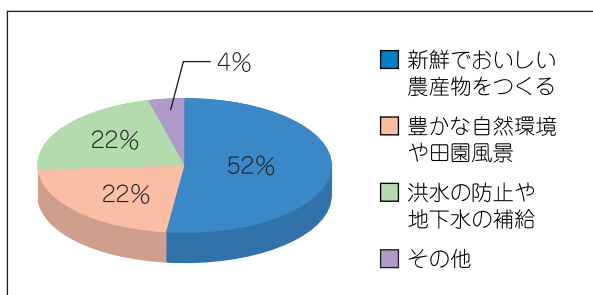
農村整備課と水土里ネットさいたまでは、農業農村整備事業の取組みについて県民の方々に広く知っていただくため、ブースを出展し、農業農村整備事業に関するパネルの展示とアンケートを行いました。



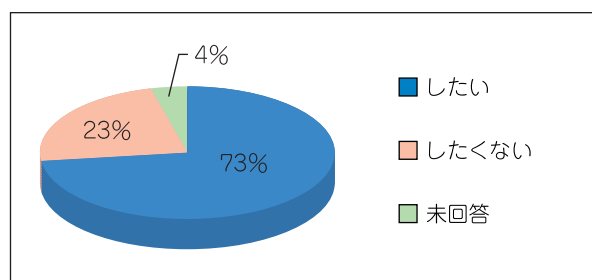
ドリームフェスタの様子

○主なアンケートの設問と回答 (回答数1000)

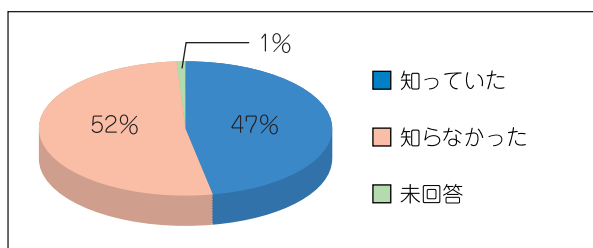
問1 田んぼや農業用水には、様々な役割があります。一番重要な役割は何だと思えますか。



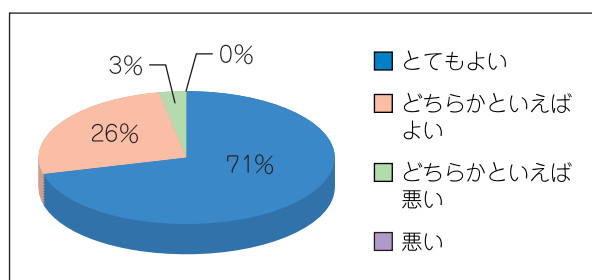
問2 あなたは田んぼなどが持つ様々な役割(多面的機能)を維持保全する地域の共同活動に参加したいですか。



問3 県では、平成20年度から「川の再生」に取り組んでいますが、あなたはこの「川の再生」の取り組みをご存知でしたか。



問4 現在、県で進めている「川の再生」の取組について、どのように思われますか。



通常総会開催のお知らせ

本会の第60回通常総会を下記のとおり開催いたしますので、お知らせします。

と き 平成29年3月21日(火)
時 間 午前10時から
場 所 埼玉県県民健康センター(さいたま市)

問い合わせ先 水土里ネットさいたま(総務課)
電話 048-530-7335

連合会日誌

開催日	会議・行事	開催地
10月	3日 東松山土地改良推進協議会幹事会	東松山市
	5日 秩父土地改良推進協議会幹事会	秩父市
	6日 川越土地改良推進協議会幹事会	川越市
	本庄土地改良推進協議会幹事会	本庄市
	12日 加須土地改良推進協議会幹事会	加須市
	25日~26日 全国土地改良大会	石川県
	26日 多面的機能支援推進会議研修会	行田市
11月	9日 本会第3回監事会及び理事会	熊谷市
	10日~11日 水土里ネット職員研修会	長野県
	11日 多面的機能支援推進会議優良事例地区視察	秩父市
	14日 東松山土地改良推進協議会視察研修会	羽生市
	15日 春日部土地改良推進協議会視察研修会	長野県
	16日 さいたま土地改良推進協議会視察研修会	茨城県
	川越土地改良推進協議会視察研修会	茨城県
	18日 平成28年度関東ブロック秋季総会	東京都
	本庄土地改良推進協議会視察研修会	新潟県
	19日~20日 2016彩の国食と農林業ドリームフェスタ	越谷市
	22日 秩父土地改良推進協議会視察研修会	群馬県
	埼玉県農業集落排水連絡協議会優良先進地視察研修会	長野県
	24日 利根川水系農業水利協議会埼玉県支部現地視察研修会	熊谷市・群馬県
	28日 農業農村整備の集い	東京都
土地改良区体制強化事業施設管理研修(後期)	さいたま市	



水土里ネットさいたま
埼玉県土地改良事業団体連合会

〒360-0874 熊谷市籠原南二丁目83番地
TEL 048(530)7340 FAX 048(530)7370

<http://www.saidoren.or.jp/>

土地改良区体制強化事業施設管理研修

